

あゆみ

『頼みの綱』

理事長 森 公夫

日曜日の午後七時に民放で放送している鉄腕ダッシュという番組は、TOKOというグループが田舎で農業をしたり、無人島で暮らしたりす



る様子を放送して人気のある番組です。皆さんはご覧になったことがありませんか。

この中でダッシュ島と呼ばれているのが伊予市の沖にある由利島で、このことはネットにも出ています。メンバーは撮影の時、飛行機で松山空港に着くとそのままチャーター船で島に向かい、撮影後はまた船で空港近くの港まで移動して飛行機で次の仕事に行くのだそうです。

さて、日本中にあまたある無人島の中でどうして由利島が撮影場所選ばれたかということ、「氣候が安定して自然災害が少なく、かつ交通の便が良いこと」だったそうです。たしかに、東西は九州の高い山と四国山脈、南北は中国山脈と三崎半島に守られた松山周辺は一年を通じて穏やかです。

しかし近年は、地球規模での気候変動や地殻変動で、どこが安全だといえなくなって来ました。いざという時、施設を利用して人々をどう守るか。最近特に心が強くなっている東南海地震とそれによる津波などを考えはじめると、実際、夜も眠れなくなるほどの不安を感じることもあります。あゆみ学園のある地域の海岸で想定されている津波は四メートルだそうです。いざという時に備えて、昨年、児童発達支援センター屋

上への避難階段を設置したのも、「その不安を少しでも減らせたら」という思いからでした。

しかし、自然災害ばかりではなく、日常活動の中でも、私たちは常にいろいろな危険にさらされ続けていることも忘れてはなりません。

世相の変化、人の心の変化や価値観の多様化も、またある種のリスクです。自然災害に対しては日頃の訓練で被害を出来るだけ小さくする努力が出来ますが、事業が抱える「人の心に起因するリスク」はどうやって減らせばよいのでしょうか。突き詰めるところ、やはりそれは私たち一人ひとりの、日常の積み重ねの他にないのです。

たしかに人間関係をいい形で維持していくには努力が必要です。しかし、私たちは無人島でひとり暮らしをしているのではなく、たくさんの人たちの共存の中で生きていくわけですから、それを大切にしない生活はあり得ません。

最近起こったいろいろな災害の現場でも、近所の人たちからの協力や情報によって救われた人が沢山ありました。保護者との連携と信頼。地域との交流と相互理解。職員相互の理解と協力。それが、予想も出来ない出来事や、いざという自然災害の時に、私たちを守ってくれる極めて大きな力、頼みの綱であることは間違いありません。

社会福祉法人あゆみ学園

理念

当法人は、障がいのある子どもとその保護者を支援するため、日本基督（キリスト）教団松山教会の青年によって始められた事業をその礎（いしずえ）とし、キリスト教の愛の精神に基づいた社会福祉事業を行い地域社会に貢献します。

『あゆみ学園への希望と期待』

松山教会

牧師

上林 順一郎

日本が戦後の混乱期から次第に復興へと進む一九六〇年（昭和三十五年）、松山教会の青年たちによってはじめられた子どもたちへの支援の活動が今日の「あゆみ学園」の出発となりました。その後、一九六九年（昭和四十四年）に「社会福祉法人あゆみ学園」として正式に創設され、今日まで五十六年の歩みが続けてきました。その活動の精神的な基盤はいっまでもなくイエス・キリストの愛にあります。すべての人に対しても隔てなくイエス・キリストは



あゆみ学園」の掲げている「愛と奉仕の精神」はこの神の愛、アガペーによって支えられ、生かされているものなのです。

「あゆみ学園」はその後、時代の要請もあり、また行政の支援を得て発展し、今日のような多様で大きな規模の施設へと発展してきました。今後ますます「あゆみ学園」への期待は高まることと見えています。そのためにも長い歴史の中で守られ継承されてきた「キリスト教の精神に基づいた愛と奉仕」による活動をさらに一層強めていく必要があると思います。「あゆみ学園」がこれまでも大切にしてきたこの「見えない遺産」を引き継ぎ、今後も各事業の中で具体的な「見える形」で示していくことが求められていると思います。

イエス・キリストの教えに「あなたの方で偉く

愛を注ぎ、十字架にかかってその命を捨てるほどまで人々を愛しつくされたその愛です。キリスト教ではこの愛をアガペーと呼び、神の愛を表す言葉として用いられてきました。「あ

なりたい者は、皆に仕える者になりなさい」という言葉があります。子どもたちのために、また障がいのある人々に対して、さらにはすべての人々のために心から仕えていく愛の精神と奉仕の業を最も大切なこととして引き継ぎ、「あゆみ学園」の発展に尽くしていただきたいと思います。

「あゆみ学園」を生み出した松山教会は、これからもできるだけの支援と祈りをもって「あゆみ学園」のあゆみのためにできる限りの力を捧げたいと思っています。



『あひこんちむたち』

あゆみ学園

管理者 武智 一郎

毎朝送迎車に揺られてやってくる子どもたち
この機嫌は実に様々です。「おはようー」と車の中
を覗き込んだとたんに不機嫌そうな顔に変わ
ることも度々です。先生たちはなだめたりすかし
たり…でも子どもは機嫌はなかなか直らず、その
場から動こうとしません。そんな時は、「イチ、
二、イチ、二」と勢いよく号令をかけながら(少々
強引に)玄関まで引っ張っていくことがあります。
そして泣いている子を見ながら、「嫌われてしま
ったかな。」と思うのです。「こころがお帰りの時、
その子は明るい顔でじっとこころを見ているた
りします。まるまると「園長、おまえは強引だな。まあ、
今日は許してやるよ。」なんて言っているよう
です。この子の方が一枚上手のようです。
十一月下旬に、中・四国の通園施設職員の研究
大会があゆみ学園で開催されました。先生方は「
ピリッしていました」が、『これがあゆみの活動だ。』
という気概を見せてくれました。当然です。こん
なすごい子どもたちと、その御めがねにかなった
先生たちが頑張っているのですから



『個の尊厳と共感のできる社会』

多機能型事業所あゆみ

管理者 真鍋 孝夫

平成二十七年八月十五日土曜日は、終戦七〇周年目を迎えた記念すべき日であった。テレビを見ていると戦没者を追悼する番組がこれまで以上

に多く見られた。その中に、白い旗を高く掲げて移動する幼子の姿を見た。銃撃戦の続く沖縄の戦地で洞窟に逃げ込んだ幼子は、その洞窟の中で両手両足を失った老人と目の見えぬお婆さんに出会う。庶民に紛れ込んだ兵士を追って、どの洞窟も火炎放射と手榴弾が容赦なく打ち込まれ、見境無く命を奪っていく。洞窟で出会った老人はいきなり「私が身に付けているふんどしがそこにあるのでそれを取りなさい。そして破ってそこにある枝木に吊しなさい。この白い旗は万国共通で持っているれば命は守られる。この旗を高く掲げて、しっかりと持って行きなさい。そして命を大切にしなさいよ。生きていけばきっと良いこともある。さあ・・・早く行きなさい。」と言われ洞窟を去った。その時の思いをやっと話せるようになった・・・と。「この白い旗を持っているのが私です。」本人がインタビューに答えている。その場面を見ることで感動に浸った。人としての命の大切さ、今、出会っている施設利用者一人ひとりの命の尊厳、人としての人權の重さを改めて感じる貴重な一日となった。



『 難民が求めているもの 』
多機能型事業所あゆみ

管理者補佐 渡部 剛



TVに映るシリア難民の長蛇の列、戦乱で故郷を追われ、着の身着のまま黒々とした群れとなって延々と行進する、異様なそして苛酷な姿。大人に混じりクローズアップされる子供たちが、不安そうなかにも余りに愛くるしく、余りに対照的で余計に痛ましい。

スーダンやソマリア等アフリカ難民の惨状も悩ましいが、ただ一つ相違するのは彼等がひたすらドイツを目指して歩み続けること。

これは民族大移動か、それとも聖書に記されたExodusの再来か、果たしてヨーロッパに乳と蜜の流れるカナンの地が待っているのだろうか。

日本とは対極の世界に生きる人々の現実を前にして、我々は今の平和と福祉を守らねばならないと思う一方、自分達の幸せだけを考えていけば良いのかと考え込んでしまいます。

日々の仕事に埋没せず、グローバルな時代の豊かさ、華やかさばかりが喧伝される傍に、苦難と悲哀が同居する事実を忘れるまい。

『 あゆみ学園で働き始めて 』
児童発達支援センターあゆみ学園

保育士 宇都宮 凌

あゆみで働き始めて半年がすぎました。療育の難しさを痛感しています。自分自身、まだまだ未熟で分からないこともたくさんありますが、先生方からたくさん吸収していきたいと思っています。また、夕涼み会、運動会と大きな行事も経験しました。今後たくさんの方々の行事があるので、楽しみながら学んでいきたいと思っています。

『 半年が過ぎて 』

児童発達支援センターあゆみ学園

保育士 立見 一樹



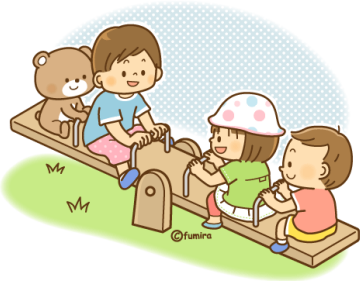
半年が過ぎ、まだまだ至らない所がありますが、先輩方から様々なアドバイスをもらい頑張っています。辛いこと不安なこともありますが、

自分に出来ることをしていきたいです。日々の中で子どもたちの出来ることが増えて、たくさん笑顔を見ることができて嬉しく思います。少しでも子どもたちが成長できるゆとりを努めていきたいと思えます。

『運動会をおえて』
児童発達支援センターあゆみ学園

児童指導員 富谷 薫

僕がぎりんクラスに入り、七ヶ月が経ちました。初めて受けもったクラスということで、驚きや発見の毎日です。運動会では普段見られない子ども達の姿を見ることができました。運動会の練習ではなかなか友達の間を走って歩けなかったり、マッティングがうまくいかなかったりしましたが練習を重ねるうちに段々できるようになり、当日は上手くできて、とても嬉しかったです。これからも、子ども達の成長を支えられるよう頑張っていきたいと思えます。



『はじめまつい』

児童発達支援事業どんぐり

児童発達支援管理責任者 黒川 真紀

今年の四月から、五年ぶりにどんぐりの配属になり、現在登録している五十五名の子ども達と保護者の方と「はじめまつい」の挨拶をしてたくさんのお会いがありました。どんぐりは、年度途中にも契約をして新しく利用を開始するお子さんもいますので、「はじめまつい」と挨拶するとは何度かあります。初めは緊張しながらどんぐりのお部屋に入ってきて自分を出せない子どもさん、いつもと違う場所に来て少し興奮する子どもさん等、反応は様々です。いつも通っている幼稚園や保育園とは、環境も人も違いますが、どんぐりでの経験が楽しく、また来たい！と思ってもらえるようになると思います。

最近、年長の子ども達が友だちと一緒にあそび楽しさがわかるようになり、毎週「〇〇くんは？」と会えるのを楽しみにするようになってきました。また、小さい子ども達も子ども同士で追いかけっこをしながら笑いあって楽しんで遊ぶ姿も見られるようになってきました。先生と出会い信頼関係を作っていくことはもちろんですが、子

ども同士の出会いも大事にして、お互いを知り、一緒にあそび共感できるように、私たち職員がお手伝いしたいと思います。

どんぐりでの経験が、お家で、幼稚園や保育園で、公園で、色々な場所で生かしていけるように様々な活動や適切な関わりを行い、子どもにとって「楽しい！」がたくさん増える事を願って取り組んでいきたいと思えます。これからも、どんぐりでたくさん遊ぼうね。



『こんにちは、あゆみ学園指定相談支援
事業所です。』

あゆみ学園指定相談支援事業所

相談支援専門員 岡本 愛

人生の節目を迎え、生活パターンが変わって丸一年。まだまだ、その生活にも慣れず…仕事と家事の両立に困惑…(家事は完璧に手抜きですが)あ



たふたな毎日を送っております。記憶に新しい、今年の運動会。私も練習の時から見学させてもらってました。幼児期によく見られる光景の一つに、一番でなきゃ嫌だ！の時期がありますよね。運動会練習の場面でも見られました。かけっこの練習で…必死に走るのですが、どうしても一番がとれず。やる気満々だった顔が、硬直した青白い顔になり。泣くのを我慢しても、悔し涙がこぼれたら…時に癪癪を起こしたりもしていました。小さな心で受け止めるには容量オーバーになるく

らしいの出来事だったのでしょね。こちらまで泣けてしまいそうになったものです。けれど、練習を重ねることに、心のわだかまりを消化していく術を覚え、運動会当日も残念な結果ではありませんが、その結果を受け止める姿には余裕が生まれていました。繰り返しの中で、“何か”を得て、一回りも二回りも成長した姿に感動を覚えました。私も見習って、繰り返しの中で“要領”と“器用さ”を獲得していきたいと思えます。さて、当事業所では、福祉サービス利用に関する計画作成や情報提供、各関係機関の連絡調整などを行っています(まだまだ、分からないことが多すぎるのですが)。疑問に思ったことなど、何なりとご相談いただければと思います。今後とも、よろしくお願い致します。

プール室改修完了報告



以前、改修工事を行っていたプール室ですがこの度完成いたしましたのでご報告申し上げます。この部屋は子供たちの遊び場や会議室など多目的に活用しております。

『笑顔って大切!!』

多機能型事業所あゆみ 生活介護事業

主任支援員 谷口 篤

生活介護事業所は現在二十八名の方々にご利用いただいております。生産活動では箱折りや自動車部品のゴムのバリ取り、じょうろの組み立て、缶つぶし作業などを実施し、その他の活動としては入浴や調理・音楽などの創作活動、外出、運動、プールなどの楽しめる活動を実施しています。これら様々な諸活動を実践する中で利用者の皆さんが本当に楽しみ自然に出てくる笑顔がとても楽しみで、実践した内容が充実して満足いただいている時はとても嬉しい気持ちになります。

“笑顔”には色々な効果があるとお聞かしています。①コミュニケーション力がアップする。②血流がアップする効果が期待できる。③免疫力がアップする。④体の抵抗力を高め、アンチエイジングにもなる。⑤前向きな気持ちになれば、仕事や勉強に対するモチベーションがアップする。満足して笑顔になる、達成感を味わう他にも右記のような効果が期待できるのであれば、それはとても素晴らしいことだと思いませんか。

これからも笑顔になれることを模索し皆様からも言われる支援につなげていきたいと思ひます。



『利用者さんと共に』

多機能型事業所あゆみ 就労継続支援B型事業

生活支援員 魚見 恵子

就労継続支援B型事業所は、現在十八名の方々に利用いただいております。作業内容は農作業、清掃作業、軽作業、シヤム製造に加え、昨年よりめかぶの選別作業を行い、就労や工賃向上に向け

て努力しております。

今年度は県主催による『愛顔つなぐハートフルポイント制度』に参加し、シヤムの販売量が増えるとともに清掃作業に対する理解も深まって工賃向上につなげることができました。

今後とも行政や一般社会の支援を受けながら、利用者自身が意欲とやりがいのもてる仕事を探り入れて、更なる工賃向上を目指したいと思ひます。

ところで、私は以前に、小学校において障害のある児童に対する教育支援をさせていただいた経験があります。その時にこの子たちが大人になったらどのような暮らしをしているのだろうかと思ひたことがあります。そして今、こちらの職員となって一年、皆さんはとても素敵な笑顔で毎日を過ごし、楽しく精一杯に活動されている姿を見て、将来は、安心して生活できる場所・環境があるのだということを知りました。これからも利用者一人一人の将来を考えながら作業内容を更に充実させて、買い物やレクリエーションなどの社会体験も十分に積み重ね、社会の一員として地域で暮らせる皆さんであるよう、共に努力していきたいと思ひます。

父母の会 役員紹介

小清水 幸子

子供がお世話になっており、園での楽しい様子もわかるので役員をさせていただいています。よろしくお願ひします。

小竹 奈津紀

今年度、副会長を務めさせて頂いております。役員の任期も残りわずかになりました。皆様の協力を頂きながら、役員一同、頑張っていきたいと思います。

亀田 綾

初めての役員で、不慣れですが役員同士協力しながら、園行事のお手伝いができたらと思ひます。頑張りますのでよろしくお願ひします。

坪内 裕美

今年度の書記をさせて頂いております。仕事をしていくうちに自分の存在価値が少しはあるのかなと思ひてきました。任期まで楽しく頑張ります。



家族会 役員紹介

網江 美津子

昨年に続いて役員をさせて頂きありがとうございます。皆様のご協力を頂きながら頑張っと思っています。皆様のご協力をお願い致します。

坂口 禎子

昨年同様、皆様のご協力を頂きながら、頑張っと思っています。よろしくお願致します。

梅岡 典子

この度、役員をさせて頂くことになりました。皆様と一緒に多機能型事業所あゆみのお役に立っと思っています。努めてまいりたいと思っています。よろしくお願致します。

加藤 真由美

あゆみにお世話になってから早いもので二年になりました。まだまだ分からないことも多く、色々教えて頂きながら役員を努めたいと思っています。よろしくお願致します。



谷本 加代

今年度、会計をさせて頂いています。子どもたちが、充実した生活を送れるよう役員としてお手伝いできたらと思っています。よろしくお願致します。

石野 ミチ子

子ども達の為に家族会の一員として、微力ながら頑張っと思っています。よろしくお願致します。



新任職員

児童指導員

富谷 薫

保育士

立見 一樹

保育士

宇都宮 凌

生活支援員

稲田 晶

(平成二十七年四月現在)

お知らせ

平成二十六年年度の苦情受付に関して
受付件数0件。処理件数0件でした。

発行

〒790-0047 松山市余戸南6丁目6番9号

社会福祉法人あゆみ学園

ayumi-g@bz01.plala.or.jp

TEL 089-972-0999 Fax 089-972-3511

HP: <http://business4.plala.or.jp/ayumi-ga/>

児童発達支援センター あゆみ学園

児童発達支援事業どんぐり

相談支援事業所くじら

TEL・Fax・mail とも法人に同じ

〒790-0047 松山市余戸南6丁目3番26号

多機能型事業所あゆみ

生活介護事業所あゆみ

就労継続支援B型事業所あゆみ

あゆみ学園指定相談支援事業所

ayumi-s@ksn.biglobe.ne.jp

TEL 089-974-5141 Fax 089-907-6100